

1986年 大会記録

国際

◇ジム・アームストロング国際大会＝フリースタイル（1月25～26日、豪州・ウォー

ロンコング）

▼48kg級 大橋正教（山梨学院大）＝優勝、▼52kg級 久保政夫（日大）＝優勝、▼57kg級 文田敏郎（山梨・峡北高教）＝3位、▼62kg級 足立勝司（山梨学院大）＝3位、▼68kg級 五位塚悟（山梨・韮崎工高教）＝4位、▼74kg級 湯浅邦茂（山梨県スポーツ事業団）、▼82kg級 安田紀久雄（山梨・韮崎工高教）、▼90kg級 鋤崎直紀（山梨学院大）＝2位

◇メドベジ国際大会＝フリースタイル（2月21～23日、ソ連・ミンスク）

▼48kg級 沖山功（日体大）＝二失、▼52kg級 金浜良（日大）＝二失、▼57kg級 角地山豊（日大）＝二失、▼62kg級 安達功（日体大）＝三失、▼68kg級 五位塚悟（山梨・韮崎工高教）＝二失、▼74kg級 角崎朋博（日体大）＝四失

◇西ドイツ国際大会＝グレコローマン（3月22～23日、西ドイツ・フライブルグ）

▼48kg級 蝦名康一（自衛隊）＝3位、▼52kg級 大川秀和（奈良県教委）＝3位、▼57kg級 中留俊司（日体大）＝三失、▼62kg級 西口茂樹（日体大）＝三失、▼68kg級 森巧（国士舘大）＝二失、▼74kg級 小林希（日体大）＝二失、▼82kg級 屋比久保（国士舘大）＝二失、▼90kg級 東出徹（奈良県教委）＝二失、▼100kg級 武藤光一（日体大）＝二失

◇スーパーチャンピオンカップ＝フリースタイル（4月29日、東京・代々木競技場第

2体育館）

▼48kg級 入江隆（自衛隊）＝優勝、大橋正教（山梨学院大）＝3位、▼52kg級 上島一敏（広木商事）＝3位、佐藤満（日体大大学院）＝3位、▼57kg級 角地山豊（警視庁）＝3位、清藤直博（国士舘大）＝3位、▼62kg級 五位塚悟（山梨・韮崎工高教）＝3位、井村陽三（静岡・沼津学園高教）＝3位、▼68kg級 杉野浩吉（自衛隊）＝2位、原喜彦（日体大研）＝3位

※フリースタイル4階級のみ実施

◇コンコード国際大会＝グレコローマン（、米国・コンコード）

▼48kg級 大橋正教（山梨学院大）、▼52kg級 中森昭平（日体大）、▼57kg級 山

元浩（日体大）、▼62kg 級 足立勝治（山梨学院大）、▼68kg 級 森太郎（日体大）、▼74kg 級 大拙守（明大）、▼82kg 級 鋤崎直記（山梨学院大）、▼90kg 級 鈴木和芳（専大）、▼100kg 級 草野敦（国士舘大）、▼130kg 級 本間和吉（専大）

◇グッドウイル・ゲームズ（7月11～14日、ソ連・モスクワ）

2敗

1回戦 日本● [0-10] ○ソ連

2回戦 日本● [2-8] ○モンゴル

《個人成績》▼48kg 級 東野勝（大東大）= 2敗、▼52kg 級 金浜良（日大）= 2敗、▼57kg 級 森下敏清（日体大）= 2敗、▼62kg 級 安達巧（日体大）= 4位、▼68kg 級 五位塚悟（山梨・葦崎工高教）= 2敗、▼74kg 級 平山宣伸（日体大）= 2敗、▼82kg 級 伊藤敦（日体大）= 4位、▼90kg 級 保坂竹道（自衛隊）= 2敗、▼100kg 級 本田多聞（自衛隊）= 2敗、▼130kg 級 浅井功（日体大）= 2敗

◇世界ジュニア選手権（7月16～ 日、西ドイツ・シフェルスタッド）

《フリースタイル》▼48kg 級 関昌弘（群馬・館林高）= 四失、▼52kg 級 清水光二（山形・山形商高）= 三失、▼56kg 級 光武秀二（佐賀・鹿島実高）= 二失、▼60kg 級 清水賢一（山梨・葦崎工高）= 四失、▼65kg 級 本間純二（秋田・秋田商高）= 四失、▼70kg 級 今村直樹（群馬・太田商高）= 三失、▼75kg 級 早稻田礼文（長崎・島原高）= 三失、▼81kg 級 松下文雄（佐賀・鹿島実）= 二失、▼87kg 級 仁田昭彦（群馬・館林）= 二失、▼87kg 以上級 滝田博幸（栃木・足利工大付）= 二失

《グレコローマン》▼48kg 級 関島啓二（茨城・土浦日大高）= 二失、▼52kg 級 石塚和行（千葉・八千代松蔭高）= 二失、▼56kg 級 仁田聡寿（宮城・東北電子工高）= 二失、▼60kg 級 今村浩之（群馬・関東学園高）= 三失、▼65kg 級 三井真吾（千葉・八千代松蔭高）= 二失、▼70kg 級 藤原光（大阪・高石高）= 二失、▼75kg 級 村田憲司（東京・中大付高）= 四失、▼81kg 級 永田裕志（千葉・成東高）= 二失、▼87kg 級 野々村孝（岐阜・岐阜西高）= 三失、▼87kg 以上級=派遣なし

◇エスポワール・ワールドカップ=フリースタイル（7月8～12日、カナダ・セント

ジョーンズ）

5位（1勝4敗）

1回戦 日本● [0-10] ○ソ連

2回戦 日本○ [10-0] ●豪州

3回戦 日本● [2-8] ○米国

4回戦 日本● [1-9] ○キューバ

5回戦 日本● [3-7] ○カナダ、

《個人順位》▼48kg級 猪狩清一（法大）=3位、▼52kg級 兜森衛（東洋大）=5位、▼57kg級 清藤直博（国士舘大）=4位、▼62kg級 戸崎素成（日体大）=5位、▼68kg級 堀浩章（日体大）=3位、▼74kg級 下玉利太（日大）=5位、▼82kg級 向原英史（明大）=5位、▼90kg級 間山泰範（日体大）=5位、▼100kg級 中西学（専大）=5位、▼130kg級 出口一也（国士舘大）=5位

◇世界女子フェスティバル（7月19～20日、ベルギー・メチェレン）

《シニア》▼52kg級 荒川百合（ユナイテッドステイール）、

《ジュニア》▼44kg級 吉村祥子（東京・成城学園高）、▼48kg級 大金孝子（栃木・馬頭高）、福田京子（松下電工）、▼56kg級 佐藤玲子（城西クラブ）、▼60kg級 高橋朋美（エドワーズ）、▼65kg級 加藤悦子（全日本女子プロレス）、▼65kg以上級 天田麗文（全日本女子プロレス）

《カデット》▼56kg級 遠藤美子（茨城・茎崎高）、▼70kg以上級 市川千秋（ボントン）

◇アジア大会（9月25日～10月4日、韓国・ソウル）

《フリースタイル》▼48kg級 入江隆（自衛隊）=3位、▼52kg級 佐藤満（日体大大学院）=優勝、▼57kg級 朝倉利夫（国士大教）=3位、▼62kg級 栄和人（奈良県教委）=2位、▼68kg級 赤石光生（日大）=2位、▼74kg級 角崎朋博（日体大）=3位、▼82kg級 菊地隆（和歌山県教委）=2位、▼90kg級 保坂竹道（自衛隊）=5位、▼100kg級 本田多聞（自衛隊）=7位、▼130kg級 猿田充（山梨・甲府西高教）=4位

《グレコローマン》▼48kg級 斉藤育造（和歌山県教委）=3位、▼52kg級 宮原厚次（自衛隊）=優勝、▼57kg級 中留俊司（日体大）=優勝、▼62kg級 長内清一（三八教育事務所）=優勝、▼68kg級 森巧（国士大助）=2位、▼74kg級 伊藤広道（自衛隊）=3位、▼82kg級 向井孝博（自衛隊）=2位、▼90kg級 森山泰年（自衛隊）=優勝、▼100kg級 近藤務（自衛隊）=3位、▼130kg級 安藤正哉（安藤コンクリート）=2位

◇世界選手権（10月19～26日、ハンガリー・ブダペスト）

《フリースタイル》▼48kg 級 入江隆（自衛隊）＝8位、▼52kg 級 佐藤満（日体大大学院）＝2位、▼57kg 級 朝倉利夫（国士大教）＝三失、▼62kg 級 栄和人（奈良県教委）＝4位、▼68kg 級 赤石光生（日大）＝7位、▼74kg 級 角崎朋博（日体大）＝7位、▼82kg 級 菊地隆（和歌山県教委）＝三失、▼90kg 級 保坂竹道（自衛隊）＝二失、▼100kg 級 本田多聞（自衛隊）＝10位、▼130kg 級 浅井功（日体大）＝8位

《グレコローマン》▼48kg 級 斉藤育造（和歌山県教委）＝8位、▼52kg 級 宮原厚次（自衛隊）＝3位、▼57kg 級 中留俊司（日体大）＝8位、▼62kg 級 長内清一（三八教育事務所）＝8位、▼68kg 級 森巧（国士大助）＝三失、▼74kg 級 谷一郎（徳島・徳島工高教）＝二失、▼82kg 級＝派遣なし、▼90kg 級 森山泰年（自衛隊）＝4位、▼100kg 級 近藤務（自衛隊）＝10位、▼130kg 級＝派遣なし

◇ワールドカップ＝グレコローマン（11月～15日、米国・オークラウンズ）

《個人順位》▼48kg 級 大橋正教（山梨学院大）＝2位、▼52kg 級 藤波俊一（日体大）＝3位、▼57kg 級 中留俊司（日体大）＝5位、▼62kg 級 西口茂樹（日体大）＝5位、▼68kg 級 森巧（国士館大助）＝5位、▼74kg 級 湯浅邦茂（）＝5位、▼82kg 級 屋比久保（国士館大）＝5位、▼90kg 級 東出徹（奈良県教委）＝5位、▼100kg 級＝派遣なし、▼130kg 級＝派遣なし

国内

◇西ドイツ国際大会代表選考会＝グレコローマン（2月11日、東京・青少年総合センター）

《優勝者》▼48kg 級 蝦名康一（自衛隊）、▼52kg 級 大川秀和（奈良県教委）、▼57kg 級 中留俊司（日体大）、▼62kg 級 西口茂樹（日体大）、▼68kg 級 森巧（国士館大）、▼74kg 級 小林希（日体大）、▼82kg 級 屋比久保（国士館大）、▼90kg 級 東出徹（奈良県教委）、▼100kg 級 武藤光一（日体大）

◇全国高校選抜大会（3月30～31日、新潟・新潟市体育館）

《学校対抗戦》[1] 青森・光星学院高（6年連続7度目）、[2] 茨城・霞ヶ浦、[3] 群馬・館林、鹿児島・鹿児島商工

《個人戦優勝者》▼48kg 級 関昌弘（群馬・館林）、▼52kg 級 山崎節（茨城・霞ヶ浦）、▼56kg 級 花田秀実（青森・光星学院）、▼60kg 級 今村浩之（群馬・関東学園）、

▼65kg 級 本間純二（秋田・秋田商）、▼70kg 級 石沢常光（青森・光星学院）、▼75kg 級 津内口正（青森・光星学院）、▼75kg 以上級 小幡弘之（埼玉・埼玉栄）

◇スーパーチャンピオンカップ女子代表選考会（4月6日、東京・青少年総合センター）

一)

▼52kg 級 福田京子（松下電工）、▼59kg 級 佐藤玲子（城西クラブ）、▼65kg 級 高橋朋美（エドワーズ）

◇西日本学生春季新人戦＝フリースタイル（ ）

《優勝者》▼48kg 級 奥村幸治（徳山大）、▼52kg 級 屋敷宗寿（同志社大）、▼57kg 級 藤本佳和（同志社大）、▼62kg 級 土橋啓之（近大）、▼68kg 級 村上勉（桃山学院大）、▼74kg 級 内山一栄（同志社大）、▼82kg 級 岩本昭宏（福岡大）、▼90kg 級 永井孝治（近大）

※フリースタイルのみ

◇世界ジュニア選手権代表選考会（5月5～6日、東京・青少年総合センター）

《フリースタイル優勝者》▼48kg 級 関昌弘（群馬・館林高）、▼52kg 級 清水光二（山形・山形商高）、▼56kg 級 花田秀実（青森・光星学院高）、▼60kg 級 清水賢一（山梨・韮崎工高）、▼65kg 級 本間純二（秋田・秋田商高）、▼70kg 級 石沢常光（青森・光星学院高）、▼75kg 級 津内口隆（青森・光星学院高）、▼81kg 級 松下文雄（佐賀・鹿島実）、▼87kg 級 仁田昭彦（群馬・館林）、▼87kg 以上級 滝田博幸（栃木・足利工大付）

《グレコローマン優勝者》▼48kg 級 関島啓二（茨城・土浦日大高）、▼52kg 級 石塚和行（千葉・八千代松蔭高）、▼56kg 級 仁田聡寿（宮城・東北電子工高）、▼60kg 級 今村浩之（群馬・関東学園高）、▼65kg 級 三井真吾（千葉・八千代松蔭高）、▼70kg 級 藤原光（大阪・高石高）、▼75kg 級 村田憲司（東京・中大付高）、▼81kg 級 永田裕志（千葉・成東高）、▼87kg 級 野々村孝（岐阜・岐阜西高）、▼87kg 以上級 神子沢健一（青森・光星学院高）

◇東日本学生リーグ戦（5月14～16日、東京・駒沢体育館）

《順位》[1] 日体大（8年連続10度目）、[2] 日大

（A組）[1] 日体大、[2] 中大、[3] 専大、[4] 東洋大、[5] 東海大、[6] 拓大

（B組）[1] 日大、[2] 国士大、[3] 山梨学院大、[4] 大東大、[5] 明大、[6] 法大

◇西日本学生選手権（5月16～19日、大阪・臨海スポーツセンター）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 是永順次（福岡大）、▼52kg級 西川知志（同志社大）、▼57kg級 仮屋広和（徳山大）、▼62kg級 大河内幸保（福岡大）、▼68kg級 奥山泰司（桃山学院大）、▼74kg級 原田芳生（徳山大）、▼82kg級 恒川寿生（同志社大）、▼90kg級 笹部文男（福岡大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 是永順次（福岡大）、▼52kg級 釵持俊昭（近大）、▼57kg級 仮屋広和（徳山大）、▼62kg級 小島直人（徳山大）、▼68kg級 内山一栄（同志社大）、▼74kg級 原田芳生（徳山大）、▼82kg級 恒川寿生（同志社大）、▼90kg級 芳村昌秀（同志社大）

◇エスポワール・ワールドカップ代表選考会＝フリースタイル（6月2日、東京・青少年総合センター）

《優勝者》▼48kg級 猪狩清一（法大）、▼52kg級 兜森衛（東洋大）、▼57kg級 清藤直博（国士舘大）、▼62kg級 戸崎素成（日体大）、▼68kg級 堀浩章（日体大）、▼74kg級 下玉利太（日大）、▼82kg級 向原英史（明大）、▼90kg級 間山泰範（日体大）、▼100kg級 中西学（専大）、▼130kg級 出口一也（国士舘大）

◇全日本社会人選手権（6月7～8日、東京・駒沢体育館）

《団体戦優勝チーム》▼官公庁 自衛隊、▼実業団 アイシン精機、▼クラブ 奈良クラブ

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 小林孝至（日大ク）、▼52kg級 藤川健治（自衛隊）、▼57kg級 角地山豊（警視庁）、▼62kg級 五十嵐淳一（自衛隊）、▼68kg級 原善彦（日体大研）、▼74kg級 佐川正吉（自衛隊）、▼82kg級 安田紀久雄（山梨ク）、▼90kg級 赤石明雄（山梨ク）、▼100kg級 堀正浩（本田技研）、▼130kg級 鈴木光（ユナイテッド・スティーール）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級＝出場なし、▼52kg級 一色啓雅（和歌山県協会）、▼57kg級 黒飛健（自衛隊）、▼62kg級 大城利幸（自衛隊）、▼68kg級 森巧（国士舘大助）、▼74kg級 伊藤広道（自衛隊）、▼82kg級 屋比久保（沖縄県協会）、▼90kg級 東出徹（奈良ク）、▼100kg級 近藤務（自衛隊）、▼130kg級 藤森安一（警視庁）

◇東日本学生春季新人戦（6月19～21日、東京・駒沢体育館）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 坂木勇夫（専大）、▼52kg級 伯川強（専大）、

▼57kg級 佐々木一郎（日体大）、▼62kg級 嶺岸武（日体大）、▼68kg級 安達巧（日体大）、▼74kg級 得本啓次（日体大）、▼82kg級 向原英史（明大）、▼90kg級 竹沢新吾（明大）、▼90kg以上級 出口一也（国士舘大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 坂木勇夫（専大）、▼52kg級 細見雅樹（山梨学院大）、▼57kg級 藤岡道三（日体大）、▼62kg級 嶺岸武（日体大）、▼68kg級 堀浩幸（日体大）、▼74kg級 田崎光幸（国士舘大）、▼82kg級 浅沼俊幸（国士舘大）、▼90kg級 竹沢新吾（明大）、▼90kg以上級 鋤崎太（山梨学院大）

◇西日本学生春季リーグ戦（6月20～22日、大阪・臨海スポーツセンター）

《順位》[1] 福岡大（7季ぶり12度目）、[2] 同志社大、[3] 徳山大、[4] 近大、[5] 名商大、[6] 桃山学院大

◇世界女子フェスティバル代表選考会（6月21日、東京・青少年総合センター）

《優勝者》▼44kg級 吉村祥子（東京・成城学園高）、▼48kg級 大金孝子（栃木・馬頭高）、▼52kg級 荒川百合（ユナイテッドスティール）、▼56kg級 佐藤玲子（城西クラブ）、▼60kg級 高橋朋美（エドワーズ）、▼65kg級 加藤悦子（全日本女子プロレス）、▼70kg級 天田麗文（全日本女子プロレス）、▼70kg以上級 市川千秋（ボントン）

◇全日本選手権（6月27～29日、東京・駒沢体育館）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 入江隆（自衛隊）、▼52kg級 佐藤満（日体大大学院）、▼57kg級 朝倉利夫（国士大教）、▼62kg級 栄和人（奈良県教委）、▼68kg級 赤石光生（日大）、▼74kg級 角崎朋博（日体大）、▼82kg級 菊地隆（和歌山県教委）、▼90kg級 保坂竹道（自衛隊）、▼100kg級 本田多聞（自衛隊）、▼130kg級 谷津嘉章（ジャパン・プロレス）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 斉藤育造（和歌山県教委）、▼52kg級 宮原厚次（自衛隊）、▼57kg級 中留俊司（日体大）、▼62kg級 長内清一（三八教育事務所）、▼68kg級 森巧（国士大教）、▼74kg級 谷一郎（徳島・徳島工高教）、▼82kg級 向井孝博（自衛隊）、▼90kg級 森山泰年（自衛隊）、▼100kg級 近藤務（自衛隊）、▼130kg級 安藤正哉（安藤コンクリート）

◇インターハイ（8月2～5日、岡山・鴨方町）

《学校対抗戦》[1] 茨城・霞ヶ浦（初）、[2] 青森・光星学院、[3] 群馬・館林、鹿児島・鹿児島商工

《個人戦優勝者》▼48kg 級 山下忍（茨城・霞ヶ浦）、▼52kg 級 山崎節（茨城・霞ヶ浦）、▼56kg 級 花田秀実（青森・光星学院）、▼60kg 級 奥山恵二（茨城・霞ヶ浦）、▼65kg 級 太田拓弥（茨城・霞ヶ浦）、▼70kg 級 寺沢淳（茨城・霞ヶ浦）、▼75kg 級 井筒忍（茨城・霞ヶ浦）、▼75kg 以上級 小幡弘之（埼玉・埼玉栄）

◇全日本学生選手権（8月28～31日、大阪府立臨海スポーツセンター）

《フリースタイル優勝者》▼48kg 級 喜多龍昭（日体大）、▼52kg 級 金浜良（日大）、▼57kg 級 森下敏清（日体大）、▼62kg 級 安達巧（日体大）、▼68kg 級 赤石光生（日大）、▼74kg 級 角崎朋博（日体大）、▼82kg 級 伊藤敦（日体大）、▼90kg 級 鈴木和芳（専大）、▼100kg 級 菊地毅（大東大）、▼130kg 級 浅井功（日体大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg 級 大橋正教（山梨学院大）、▼52kg 級 藤波俊一（日体大）、▼57kg 級 近浦淳二（日大）、▼62kg 級 西口茂樹（日体大）、▼68kg 級 有延伸一（国士舘大）、▼74kg 級 大舩守（明大）、▼82kg 級 小林希（日体大）、▼90kg 級 武藤光一（日体大）、▼100kg 級 草野敦（国士舘大）、▼130kg 級 奈良英則（日大）

◇全国高校生グレコローマン選手権（9月14～15日、東京・青少年総合センター）

《優勝者》▼48kg 級 佐藤貢（秋田・秋田商）、▼52kg 級 田川直樹（神奈川・湘南）、▼56kg 級 大沢陽太（茨城・霞ヶ浦）、▼60kg 級 鈴木信行（秋田・秋田商）、▼65kg 級 今村浩之（群馬・関東学園）、▼70kg 級 伊藤強（秋田・秋田商）、▼75kg 級 今村直樹（群馬・太田商）、▼81kg 級 村田憲司（東京・中大付）、▼87kg 級 加藤一広（栃木・宇都宮商）、▼87kg 以上級 宮崎久（茨城・霞ヶ浦）

◇西日本学生新人戦（9月14～15日、大阪・桃山学院大）

《フリースタイル優勝者》▼48kg 級 松本励二（関学大）、▼52kg 級 小川平二（同志社大）、▼57kg 級 辻久信（近大）、▼62kg 級 伊礼伸幸（南九州大）、▼68kg 級 柳本和紀（同志社大）、▼74kg 級 村上勉（桃山学院大）、▼82kg 級 内山一栄（同志社大）、▼90kg 級 永井孝治（近大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg 級 是永順次（福岡大）、▼52kg 級 小川平二（同志社大）、▼57kg 級 馬場大（大体大）、▼62kg 級 伊礼伸幸（南九州大）、▼68kg 級 谷口英和（近大）、▼74kg 級 内山一栄（同志社大）、▼82kg 級 西澤憲彦（同志社大）、▼90kg 級 河内義雄（大体大）

◇全日本学生王座決定戦（9月26～27日、東京・駒沢体育館）＝決勝成績

日体大○ [6-3] ●国士舘大

※日体大は9年連続10度目の優勝

◇国体（10月13～16日、山梨・高根町民体育館、須玉総合町民体育館）

《成年フリースタイル優勝者》▼48kg級 小林孝至（茨城・ユナイテッドスティーラ）、▼52kg級 清水清人（宮崎・日南高教）、▼57kg級 角地山豊（東京・警視庁）、▼62kg級 安達巧（鹿児島・日体大）、▼68kg級 五位塚悟（山梨・韮崎工高教）、▼74kg級 樋口直巳（三重・桑名工高教）、▼82kg級 安田紀久夫（山梨・韮崎工高教）、▼90kg級 赤石明雄（山梨・県教委）、▼100kg級 千葉裕司（神奈川・横須賀工高教）、▼130kg級 石井信也（神奈川・厚木高教）

《成年グレコローマン優勝者》▼48kg級 大橋正教（山梨・山梨学院大）、▼52kg級 藤波俊一（三重・日体大）、▼57kg級 三宅正徳（岐阜・大垣養護学教）、▼62kg級 出口泰三（和歌山・県教育庁）、▼68kg級 大久保康裕（埼玉・自衛隊）、▼74kg級 伊藤広道（埼玉・自衛隊）、▼82kg級 福岡浩一（宮崎・宮崎一高教）、▼90kg級 森山泰年（埼玉・自衛隊）、▼100kg級 福辺雅彦（奈良・橿原会館）、▼130kg級 安藤正哉（岐阜・安藤コンクリート）

《少年フリースタイル優勝者》▼48kg級 山下忍（茨城・霞ヶ浦）、▼52kg級 山崎節（茨城・霞ヶ浦）、▼56kg級 花田秀実（青森・光星学院）、▼60kg級 奥山恵二（茨城・霞ヶ浦）、▼65kg級 太田拓弥（茨城・霞ヶ浦）、▼70kg級 石沢常光（青森・光星学院）、▼75kg級 津内口隆（青森・光星学院）、▼81kg級 高橋和生（千葉・八千代松陰）、▼87kg級 安楽純二（大阪・茨田）、▼87kg以上級 小幡弘之（埼玉・埼玉栄）

《少年グレコローマン優勝者》▼48kg級 佐藤貢（秋田・秋田商）、▼52kg級 清水光二（山形・山形商）、▼56kg級 福永等（岐阜・各務原）、▼60kg級 大塚量哉（岐阜・岐阜工）、▼65kg級 今村浩之（群馬・関東学園）、▼70kg級 石川宏明（埼玉・埼玉栄）、▼75kg級 今村直樹（群馬・太田商）、▼81kg級 横森昌和（山梨・韮崎工）、▼87kg級 野々村孝（岐阜・岐阜西工）、▼87kg以上級 神子沢健二（青森・光星学院）

◇東日本学生グレコローマン対抗戦（10月18日、東京・駒沢体育館）

国士舘大○ [5-4] ●日体大

※

◇東日本学生秋季新人戦（10月30日～11月2日、東京・駒沢体育館）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 佐藤誠（国士舘大）、▼52kg級 飯田泰次（中大）、▼57kg級 金浜良（日大）、▼62kg級 戸崎素成（日体大）、▼68kg級 木村孝弘（早大）、▼74kg級 田崎光弘（国士舘大）、▼82kg級 関川清人（日大）、▼90kg級 浅沼俊幸（国士舘大）、▼90kg以上級 鋤崎太（山梨学院大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 笠原吉晴（東洋大）、▼52kg級 伯川強（専大）、▼57kg級 金浜良（日大）、▼62kg級 竹下敬（日体大）、▼68kg級 新垣博孝（明大）、▼74kg級 得本啓次（日体大）、▼82kg級 小林希（日体大）、▼90kg級 伊田忠富（東海大）、▼90kg以上級 竹沢新吾（明大）

◇西日本学生秋季リーグ戦（11月21～23日、大阪・臨海スポーツセンター）

《順位》[1] 福岡大（2季連続13度目）、[2] 同志社大、[3] 徳山大、[4]、[5]、[6]

◇全国社会人オープン選手権（11月22～23日、神奈川・横浜市消防訓練センター）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 笹山秀雄（青森・光星学院高OB）、▼52kg級 蝦名康一（自衛隊）、▼57kg級 佐藤満（日体大クラブ）、▼62kg級 五十嵐淳一（自衛隊）、▼68kg級 原喜彦（日体大クラブ）、▼74kg級 平山宣伸（日体大クラブ）、▼82kg級 安田紀久雄（山梨クラブ）、▼90kg級 赤石明雄（山梨クラブ）、▼100kg級 堀正治（本田技研鈴鹿）、▼130kg級 大川浩一（警視庁）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 矢作章（ユナイテッドスティール）、▼52kg級 蝦名康一（自衛隊）、▼57kg級 河本勲（自衛隊）、▼62kg級 大城利幸（自衛隊）、▼68kg級 三宅靖志（東海商船）、▼74kg級 作田勝広（自衛隊）、▼82kg級 安田紀久雄（山梨クラブ）、▼90kg級 赤石明雄（山梨クラブ）、▼100kg級 鈴木寛（本田技研鈴鹿）、▼130kg級 大川浩一（警視庁）

◇全日本大学選手権（11月29～30日、東京・駒沢屋内球技場）

《優勝者》▼48kg級 大橋正教（山梨学院大）、▼52kg級 沖山功（日体大）、▼57kg級 森下敏清（日体大）、▼62kg級 安達巧（日体大）、▼68kg級 赤石光生（日大）、▼74kg級 角崎朋博（日体大）、▼82kg級 伊藤敦（日体大）、▼90kg級 坂野下喜三（日大）、▼100kg級 武藤光一（日体大）、▼130kg級 浅井功（日体大）

《大学対抗得点》[1] 日体大（2年連続9度目）、[2] 日大、[3] 国士舘大